

株式会社 Soichiro

中小・零細企業のデジタルにおける不安を払拭し、WEBコンサルティング・デジタルマーケティングを通じて成果を上げるホームページ制作会社です。また、子育て中の働くお母さんと地域への貢献を目指し、働くお母さんが限られた時間の中で最大限力を発揮して、子育てと自己実現・自己成長を両立できる会社を目指しています。

代表者名：扇塙 宇明
住 所：〒130-0013 東京都墨田区錦糸1-10-14 2F
社 員 数：8名(うち女性6名)※平成30年8月末現在
設 立 年：平成24年6月
電 話：03-6456-1466
ホームページ：<http://www.soichiro.asia>

「手術をしても暫くは視力は安定しませんでした。
しかし、間もなく大きな不安感が彼女を襲う。社会人としてそれなりに満足の行くキャリアを重ねてきた野田さんは、初めてそのレールから逸れたことで、自分が取り残されたような気持ちになつた。体調の不安定さも相まって、ネガティブなことがり考える日々。

「このままだと精神的にも良くないと考え、先方に失礼ですが、リハビリを兼ねて働けるような求人があつたら…」とハローワークに向がいました。例えば、職場が家から近かったり、毎日出勤しなくてもいい仕事なら、今の私でもできるんじゃないかと思ったんです。病気が発覚した時は管理職であり、毎日全力だった。

「かなり悪化するまで気付かなかつたんです。結果的に数回手術することになりましたが、視力の完全回復は難しく、通院も長期必要になりました。」

その頃は、仕事が面白かったこともあるので、子育て中にしては長時間働いていたこれまで数社の外資系企業での勤務を経て、企業の広報やPRとして重ねてきたキャリアは15年を数えている。病気が発覚した時は管理職であり、毎日全力だつた。

2016年、野田さんは、左目の網膜剥離といっ
た病気で、支え合いながら地域の中小企業を幸せい
ががとうと頑張るお話をじめています。

「このままだと精神的にも良くないと考え、先方に失礼ですが、リハビリを兼ねて働けるような求人があつたら…」とハローワークに向がいました。例えば、職場が家から近かったり、毎日出勤しなくてもいい仕事なら、今の私でもできるんじゃないかと思ったんです。病気が発覚した時は管理職であり、毎日全力だつた。

しかし、今の体調のままフルタイムで働く自信はない」という業種に惹かれた。

「私が長年続けてきたPRや広報は、物やサービスが売れる現場とは少し距離があるよう感じていました。

なので、より「商売」に近い領域に興味がありました。また「デジタル分野の知識を積極的に取り込んでから、これから時代についていけないのではないかという危機感が当時からありました。家からも自転車で通える距離です、早速応募しました」

自分を必要としてくれる場所で、活躍できるよろこび

野田 葉子さん × Soichiro





「それまでのオフィスは都心の1等地にありましたし、福利厚生や待遇はもどろんすかたです。でも、今は自動車で通えるし、服装もお客様先に合わせるところ以外は自由。時間にめとりができたのが何よりも価値でした。作業環境はむしろ今の方がいいと思います。社長が人間土字に基づいた疲れにくい椅子を用意してくださつて、これが本当に楽。あと、真面目な話をすると病気の影響から紙の資料を読むこと」負担を感じるので、拡大して読める大型マイクロフォンを2台使って仕事できるので助かります。



頼いすればできます。私たちが提供できる一番の価値は、中小企業が成果を出すための戦略を立てる部分。お客様のことを知り尽くし、提供されている商品やサービスのファンになつて、成果をあげるためにはじめられたらうのかという戦略を立てるところにあるのです。その戦略を理解し、誰もがすんなり読める文章で表現してくれる人がほしい…と思つていたとき、野田さんが応募してくれました。彼女はこれまでPRとして伝えたいことを伝わる文章に表す経験を重ねてきていたし、外資系の会社にいたことで、戦略的な思考が身についていた。ぜひ働いてほしいと思いました」

週2~3回出勤という働き方についても、社長は肯定的だった。

「面接では病気のことやもがくる」と通勤は週2~3日程度を希望していました。結果的に話した。野田さんの面接を担当したS o i c h i r o の扇塚守明社長は、當時こんな思いだったのだろう。「私たち、地域の中小企業が事業をさらに加速させるためWebサイト制作とマーケティング活動支援を行なうコンサルティング会社です。当時探していたのは、文章が書ける人でした。Webサイトのデザインをかっこよくするだけなら、デザイナーにお

「当社としても、まだ正社員を採用できる体制が整つていませんでした。なので、野田さんのできる範囲で働いてほしいと伝えました。僕はも、今4歳と2歳の子どもがいます。生まれるまでは何とも思つていなかったのですが、子どもは本当に宝物。僕の大好きな夢は「墨田区で生まれ育つ子どもを増やす」なんですね。そのため、女性が子育てやすい環境づくりをしたい。毎日出勤しなくていい。在宅ワークも当たり前です」勤務時間についても柔軟に対応せています」

自分の状況を受け入れてくれたことは本当にうれしかった。野田さんも続ける。

「さら」に運がよかつたのは、「地域の中小企業のデジタル活用をサポートする」という社長の志。共感できただけ。私が最後に勤めていたのは中小企業向けの保険会社で、間接的ですが、中小企業の経営者を支える仕事をしました。S o i c h i r o もシンプルなシステムを良心的なお値段で提供することで、中小企業を応援している会社。こんな身近で、想いも考え方も近い会社に巡り合えるとは思つていいなつたので、本当によかったです」

それまで勤めていた会社とのギャップについては、大きく感じなかつたそつだ。だからこそ、私が同じ町内に住んでいることはほんきにも知られていませんでした。結婚してからも10年以上住んでいたのに、朝早く出て夜遅く帰つたので、近所さんと出会わなかつたんです(苦笑)」

「今子どもは小学4年生ですが、小さい頃から墨田区の子育て支援をフル活用させてもらつてしましました。S o i c h i r o で働く前は時間に余裕がなく、子どもがのんびり動くのにイララとして…。私の仕事について子どもは何も言いませんでしたが、心の奥底では、学童に遅くまで残ることがつらかったようです。そのつらさにもこれまで気付いてやれなかつたんだな…と今になつて思います。仕事を変えてからは子ども自身にも変化があり、物事に落ち着いて取り組みてくれるようになつたことを感じます。うれしかつたですね」

「恥ずかしながら、これまで子どもが通う学校の保護者会にも出たことがありませんでした。でも今は社長が「行って」と快く送り出してくれます。社内では「S N Sでのマーケティングが…」なんて言っていますが、当時はLINEもやつていなくて、グループでやりとりするのも初めてでしたね(笑)。しかも、このタイミングで町会の子ども部の部長」

「恥ずかしながら、これまで子どもが通う学校の保護者会にも出たことがありませんでした。でも今は社長が「行って」と快く送り出してくれます。社内では「S N Sでのマーケティングが…」なんて言っていますが、当時はLINEもやつていなくて、グループでやりとりするのも初めてでしたね(笑)。しかも、このタイミングで町会の子ども部の部長」



働くことは自分の生きがいで、これからも仕事を続けたいと話す野田さん。場所は変わつても、「働きたい」「学び続けたい」という気持ちを満たし、自分らしく働く姿がとても美しかった。